

ゆずり葉コミュニティ特命部長 大澤喜弘

新年あけましておめでとございませう。昨年は何と言っても新型コロナウイルス一色でした。学校は休校、自宅待機でテレワークが普及、日本では緊急事態宣言、世界各国では都市のロックダウン、東京オリ



ンピックも延期になりました。一方、逆瀬台自治会地区内で感染が発生しなかったのは幸いでしたが、自治会活動には多大な影響が出ました。総会は「パーパー総会」となり、春の「桜まつり」夏の「夏祭り」秋の「文化祭」という毎年恒例の行事が中止を余儀なくされ、各種サークル活動も一時は活動停止が相次ぎ、センター会館も閑古鳥が鳴く有様でした。

そんな中「防災訓練」だけは毎年継続して行うことが肝要との判断から、3密を避けるために訓練内容を簡素化し参加人数も絞って何とか実施にこぎつけましたので、その概要を少し紹介します。

①要援護者の健康確認：本来は大規模災害発生時優先的に状況確認を行なうものですが、今回は各地区委員が事前訪問し状況確認した結果を報告し集計
②消防署員による防災指導：訓練用消火器による消火器取り扱い方、人工呼吸法、AED使用方法、訓話等(参加者による実技訓練は無し)
③非常食(市から提供)の配布

以上が主な訓練内容ですが、当日訓練開始前に逆瀬台小学校校門前に設置されている防災スピーカーを使用して、訓練実施案内アナウンスを行いました。男女各1名が案内文を読み上げ、関係者が自宅の内外でどのように聴こえるかをテストしました。結果は予想通り自宅内ではアナウンスがよく聴き取れず、防災スピーカーの性能に疑問が残りました。

さて今年ですが、新型コロナウイルス用ワクチン・治療薬がインフルエンザ並みに一般にいつ出回るのか、PCR検査がもっと気軽に受けられる体制が出来るのか、まだまだ見通しは不透明ですから、「Withコロナ」の生活がもうしばらく続くことを前提に、自治会の活気を失わないように且つ慎重に活動を進めて行きたいと思えます。以上

10月4日(日)令和2年度の「福祉ネットワーク会議」を開催しました。

「福祉ネットワーク会議」とは、地域の福祉課題、特に社会的に支援を必要とする方々(高齢者、障がい者、児童など)の生活課題に焦点を当て、地域住民と行政・福祉・学校等の関係者が連携をとり、誰もが住み慣れた地域で自立した生活を送るためには、どうすればよいかを考えていく会議です。

今年も20関係団体の方々約50人が参加され、昨年に引き続き、「見守り」をテーマに、三密対策をした上で行いました。

前半は、各関係者からのお話

- ・ゆずり葉コミュニティ地域の現状と「まちづくり計画」について：会長石谷
- ・各6グループ自己紹介と「日常の中の気になる人や事」の話し合い：古泉活動支援局長
- ・「見守り」について：宝塚市社会福祉協議会逆瀬台地区センター 大関氏
- ・「見守り」活動の事例発表について：逆瀬川グリーンハイツ自治会 柳瀬副会長
- ・「高齢者のみならず子どもや障がい者の『見守り』について」：逆瀬川地域包括支援センター 中原所長

後半は、大澤特命部長からグループワークの進め方について説明があり、自分たちにできること、今後必要なこと、どのような地域にしていきたいかについて、6グループに分かれて話し合いました。

グループワークでの主な意見のまとめ

【高齢者】

- ・「安心キット」に内容を記入せず冷蔵庫に入れていたため、個人情報が入りが遅れてしまった。↓必要性を理解してもらった上で普及するべきである。
- ・不安に感じるような歩き方の人がいる。荷物を持って部屋まで同行する事もある。
- ・気になる人が買い物へ行く姿を見かけなくなると、コロナで外出していないから歩けず、介護認定の申請に繋ぐこともある。
- ・住民によっては自立心が強く、困り事があっても頼る事が少ない人もいる。日頃のさりげない見守りが必要。
- ・今は特にコロナで連絡が取り辛い。高齢者で入所された方との繋がり維持が難しい。

・宅配弁当の配達の仕事をしているが、認知症と思われる方とのコミュニケーションが難しい。高齢者への声掛けで、「どうされましたか」と聞くと、「大丈夫です」と答え、話が続かない。・高校生が地域の高齢者(認知症)の方を、家まで付き添ったことがあった。

【子ども】

- ・地域の高校生とも一緒に地域活動していきたい。地域で子供たちが育つ。
- ・ラジオ体操等イベントを行うことで、子連れで参加する世帯の状況把握をしたい。次に会った時に挨拶できることで繋がってほしいと思う。
- ・通学の見守りが地域で偏っている。全地域に広がりを持たすべきである。↓児童育成会パトロールボランティアの募集はしているものの減少傾向。
- ・登下校時の見守りが少ない。保護者が当番で立っているが、生徒数が少なくなり、毎月当番が回って来る状態で、仕事をしていると負担が大きい。地域によっては住民が見守り支援をしてくれているところもある。
- ・ゆずり葉公園横の道で(子ども?)を盗撮する不審者を見た事がある。
- ・近隣に子どもの友達が少ない、1人で外出が難しいので(見守りに)来てもらいたいのが難しいようだ。
- ・横断歩道の旗を見る事が減った。

【見守り】

- ・コロナ禍で引きこもり、地域差(急斜地等)もある。見守り方法が難しい。↓回覧板やゴミ出しなど自然に声かけしてみる。
- ・見守りの活動を続け、1日1回は声を掛けていく人もいる。
- ・民生委員活動を通じて、世帯の状況を把握してきた。それが今も生きていく。
- ・見守りを拒否する人がいるが、どうしたら良いか課題。↓1人でも多くの人に伝えるという精神で、めげずに情報発信していく必要がある。
- ・近所付き合いで鍵を預かり見守りをしていて人が、見かけないので訪問すると応答がなく、中で倒れておられた。↓命に別状はなかったが、発見が遅れてしまったのを反省している。
- ・近所付き合いの中で、信頼関係が自然と構築されている人は見守られているが、孤立してしまっている人の見守りは十分にできているのか疑問。

しまっている人の見守りは十分にできているのか疑問。

- ・地域の中で不審者情報等に過敏になり、地域交流が希薄のため地域の中で気になる人(子)がいた場合に、安易に声を掛けると不審者扱いをされる可能性もあり、できない。↓普段からまず挨拶を心がけて関係を築くことが必要。
- ・隣近所との関係が希薄化し、世代が分断されている気がするのと、担い手がなかなか見つからないし、頼り頼られる習慣が続かないのが課題。↓見守る人の人材を増やし、世代を超えた繋がりを作ってほしいと思う。

【障がい者】

・地域での障がいをお持ちの方に対する支援が足りていないのではないか。

【その他】

- ・公園をもっと遊びやすい場所にしましょう。↓清掃、草刈等環境整備が必要。
- ・地区委員が①ポスティング②集金③状況見守りを行っている。
- ・問題の所在が分かりづらい家庭に対してどう対応していくか課題。↓包括に相談し、ネットワークを利用する。
- ・災害に関して、危険地域に住んでいる住民がいるので気になっている。地域内にカメラは設置した。
- ・独自の活動としてコープの移動販売や送迎支援を行っている。

参加者へのアンケート結果

(1)参加しての感想

- ・大変地域の強いつながりを感じた。
- ・初めての参加だが、こんなに多数の方(団体)が熱心な話し合いをされているに驚いた。
- ・地域が抱える問題に取り組み力が、ゆずり葉コミュニティの中には存在していると感じた。
- ・各地域の方々といろんな意見を聞くことができて、大変参考になった。これからも高齢者だけでなく、若い人との関係も考えていきたいと思う。
- ・年1回は、今後も必ず行ってください。
- ・見守りの大切さはよくわかるが、自分が積極的にいかかわっていない。仕事を終えて何ができるか考えたい。